

かわさき区の宝物シート

宝物No.	むじんとうがたがいろとう
6-3	無尽灯型街路灯

エリア	中央地区	シーズン	通年
	富士見・中島	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区宮前交差点から富士見公園付近
問い合わせ	川崎市建設緑政局道路河川整備部道路施設課
TEL	044-200-2821
FAX	044-200-7703
E-mail	53dousi@city.kawasaki.jp
URL	https://toshiba-mirai-kagakukan.jp/learn/history/toshiba_history/roots/hisashige/index.html (TOSHIBA SPIRIT/田中久重ものがたり)
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分



基礎情報

- (株)東芝の創業者の一人である田中久重氏の発明した画期的な明るさの菜種油ランプ「無尽灯」は、19世紀始め頃にオランダから渡来した空気銃「リクトパルレン（風砲）」の原理を応用したもので、ピストンを上下することで油を灯芯にまで押し上げ、炎が小さくなるとピストンを動かすことで容易に火力を上げることができるもの。
- 富士見公園一帯の街路灯は、この無尽灯の形をモチーフにデザインされた。

由来・エピソード

- 田中久重は、寛政11年(1799)現在の福岡県久留米市でべっこう職人の長男として生まれた。わずか8歳で「開かずの硯箱」、14歳で「久留米餅に絵柄を入れる機械」を発明し、21歳のときに自作のからくり人形を初披露するなど、いつしか“からくり儀右衛門”と呼ばれ、全国を興行し活躍するようになった。
- 江戸末期、都市の発展に伴って人々は夜も仕事や遊びに費やすようになり明かりの需要が拡大した。久重は携帯用ロウソク立て「懐中燭台」を考案する。さらに、リクトパルレンの技術を応用、燃料の菜種油を空気圧ポンプで加圧し、灯芯に送り込む機構を考案した。これを応用したのが「無尽灯」で、燃料を多量に燃焼させることでロウソクの約10倍という明るさを実現し、ガラスで覆うことによって炎のチラつきも解消した。弘化4年(1847)、久重は四条烏丸に「機巧堂」を開店し、懐中燭台や無尽灯の本格的な生産を開始した。
- 明治維新後、初の通信事業が東京・横浜間で開始されたが、機器は全て外国製であった。電信網整備による近代国家形成のために電信機器の国産化が不可欠と考えた明治政府は、田中久重に白羽の矢を立てる。70歳を超え故郷久留米に戻っていた久重だが、工部省の再三の招きに応じて、明治6年(1873)に上京した。そして機器の開発に成功し高い評価を得た久重は、明治8年(1875)、銀座の煉瓦街に後の田中製造所となる店舗兼工場の創設に至る。これが日本最初の電信機器工場であり、東芝の発祥でもあった。

補足・その他

令和元年度中に尽灯型街路灯のLED化工事が行われる予定（別添参照）。

関連シート

- (6-2)富士見通り
- (6-5)富士見公園
- (17-1)ガス絶縁開閉装置(東芝エネルギーシステムズ浜川崎工場)
- (17-2)高電圧・大電力試験所(東芝エネルギーシステムズ浜川崎工場)

別添 無尽灯型街路灯のLED化について

工事前



工事後（予定）

